

## 臨床リハビリテーション学 ( 訪問 )

《担当者名》坂上哲可 tsakaue@hoku-iryo-u.ac.jp

### 【概要】

質の高いリハビリテーションを展開できる人材となるために、訪問リハビリテーション学領域における先進的な専門知識、技術と臨床に有用な理論を学ぶ。また日本の社会構造を要因とする今後増加する年齢層を対象者と想定した医療の地域連携を念頭においた知識、技術を深める。(日本作業療法士協会専門作業療法士養成カリキュラムに対応する) 特論で学んだ知識と技術を基に臨床で経験した事例の実践報告を通して、効果的かつ合理的な作業療法について学ぶ。

### 【学修目標】

一般目標：先進的な専門知識及び技術を備え質の高い訪問リハビリテーションを展開できる人材となるために、先進的な専門知識、技術と臨床に有用な理論を学ぶ。具体的には、訪問作業療法における制度環境等を在宅生活の特徴を踏まえ理解すること、および、訪問作業療法士として生活支援におけるマネジメントの実践を理解することを目指す。

行動目標：

1. 訪問作業療法に必要な専門知識を説明できる。
2. 訪問作業療法に必要な専門知識を同定できる。
3. 訪問作業療法に必要な技術を説明できる。
4. 訪問作業療法に必要な技術を実施できる。
5. 訪問作業療法に必要な理論を説明できる。
6. 訪問作業療法に必要な理論を弁別できる。
7. 専門作業療法士養成カリキュラム示された知識を説明できる。

### 【学修内容】

| 回     | テーマ              | 授業内容および学修課題                                   | 担当者  |
|-------|------------------|---|------|
| 1     | オリエンテーション        | 訪問リハビリテーションの概要を説明し、一般目標に到達するために習得すべき行動目標を説明する | 坂上哲可 |
| 2・3   | 訪問リハビリテーション基礎 -1 | 在宅での他職種理解(役割・利点・限界)連携の実際                      | 坂上哲可 |
| 4・5   | 訪問リハビリテーション基礎 -2 | リスク管理 - 急変時の備え、予防的知識 - 携帯品、全身状態の把握、服薬・栄養管理など  | 坂上哲可 |
| 6・7   | 訪問リハビリテーション基礎 -3 | 食生活の支援、一般状態の観察、疾病管理、服薬                        | 坂上哲可 |
| 8・9   | 訪問リハビリテーション基礎 -4 | バイタルサイン、在宅での感染予防・対策                           | 坂上哲可 |
| 10・11 | 訪問リハビリテーション基礎 -5 | 医療処置の知識(機器やルートの異常の発見を含む、緊急時の医師との連携)           | 坂上哲可 |
| 12・13 | 訪問リハビリテーション基礎 -6 | コミュニケーション(アセスメントを伴う)                          | 坂上哲可 |
| 14・15 | 訪問リハビリテーション基礎 -7 | 事業所管理(リーダーシップ、教育、クレーム・事故対応、ヒヤリハット)            | 坂上哲可 |

### 【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

### 【評価方法】

レポート(50%)と討論への取り組み(50%)で評価し、ペーパーテストは課さない。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書】

適宜紹介する

### 【学修の準備】

関連文献等関係資料を各自事前調査し学習(80分)。講義後与えられた課題へ取り組み、レポートを提出(80分)。

### 【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

リハビリテーション領域における高度な知識および技術を修得し、対象者が抱える諸問題に対して、科学的根拠に基づいた質の高い臨床実践を展開できる問題解決能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士前期(修士)課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

### 【実務経験】

( 2026年度・大学院 リハビリテーション科学研究科 )

坂上哲可 ( 作業療法士 )

**【実務経験を活かした教育内容】**

医療機関における臨床経験および大学における教育・研究経験をもとに講義・指導する。